

夢追い人

寛

KUTSUROGI

Sonoda  
A Hospitality Of Relaxation

“寛道”の

ものづくりを  
目指して

株式会社園田産業

代表取締役社長 園田 康介 さん

大川の家具と言われて、まず浮かんでくるのは箱物家具（タンスなど）です。今回の夢追い人では、箱物家具の産地として知られている大川で脚物家具（ソファ、ダイニングテーブルなど）をメインで製造されている(株)園田産業の園田康介社長にお話を伺いました。

寛ぎを与えるものづくり

「突板加工業から始めて、その後は早い段階から脚物家具に特化して家具を製造してきました。1961年に祖父が創業して、商工会議所の副会頭を務めている父が二代目、それから私で三代目になります。社長になってからは、四年目になりますね。」

ものを作っているところは小さい頃から見ていましたし、

会社へ遊びに行くこともありました。実家がもの作りをしているから、小学生の頃の図工の時間はできるつもりで難しいものを作ろうとしていたんですけど、全然できなかつたですね。ちょっと不器用な面もあるのでは」

園田産業の商品は、主に二代目である会長と社長がメインで企画をされているとのこと。「デザインや商品開発に関しては、木工業に携わっていない方たちからすると、出てきやすいのかなと思います。でも作る方は別ですね。工場に行くとなんか邪魔者扱いされちゃいます(笑)」

最近社員にも企画をさせることもあります。ひとつの展示会で展示する商品のうち、1、2種類くらいは、営業や企画を担当している社員発案の





ものだったりしますね。そういった新商品は、市場を調査しながらアイデアを出し合って作っています。もちろんそこには我が社のオリジナリティも忘れずに加えて、お客様の生の声を聞くために、展示会だけでなく、毎月必ず一度は社員の誰かしらが近隣の販売店の売り場に立っています。実際に接しながら、最終消費者の意見も取り入れていきますね」

園田産業といわれると思うかぶのが「寛(くつろぎ)」のマーク。実はこのマークを考えられたのも社長ご自身だそうです。

「社長になる前の年くらいに『会社を変えていこう!』となったとき、手取り早いのはブランドデザイン化だな。とにかくマークを作りたいと思

いました。食卓は寛げる場所じゃないといけないし、家族が一番集まる場所でもあります。ソファだけだと座る人座らない人がいます。寛ぎにおいて、食卓はベッドの次に需要がある場所じゃないかと思ひ、「寛」というマークにしました」

また他にも寛ぎに関わる造語を考えられているとのこと。「寛」という言葉に結びつく前に、「時寛(じかん)」という商品を作りました。実はそれが初めて本格的に企画した商品なんです。これを作るときに「時寛」という言葉がすんなり出てきて、時を寛ぐという造語なんです。その頃から寛ぎが大事だと思っていました。

それから「寛道(かんどう)」という造語も考えました。日本だと剣道、柔道、茶道、華道など道が付く言葉は、その道を極めるという意味があると思います。寛ぎの道は極めるといふ意味で考え、五年間ぐらい経ちました。いまでは園田産業という名前より、「寛」という名前が最終消費者にも浸透してきています。「寛シリーズでしょうか?」とか「寛って家具ありますか?」などと聞かれることも増えましたね」

**多種多様なニーズに  
応えるために**

「脚物家具のなかでも、いまはLD(リビングダイニング)



セットを中心に製造しています。時代の流れを汲んでいくと、ソファもダイニングセットも置けるスペースがない世帯も多くなってきました。そのなかで、ソファを使いながら食事もでき、寛ぐこともできるLDセットは大変重宝されていますね。以前から木目調のLDセットがありはしたのですが、市場には安価なものであふれていて、しっかりとした木質感のあるものはありませんでした。そこで、ある小売店さんから『オリジナルで作って欲しい』という要望があり、作ってみました。大変な反響を頂きました」

関東地方や中部地方にも商品を出されているとのこと



工場内の様子とテーブル塗装作業

ですが、やはり地域ごとにお客様の要望が違っているのと、「どこに特化していくのか見極めるのは大変ですね。まず地域ごとに家の大きさが違いますから。関東だとマンション住まいが増えるぶん、ダイニングセットもソファも置きたい」を叶えられるLDセットの要望が増えますね。家の隅を利用してL字で組んだりできるタイプが多いですね。これがどんだん南に行くにつれていく傾向にあります。いま脚物家具は別注やオーダーができることがマストな時代になってきています。サイズ対応、木部対応、張地対

応はできて当たり前。そうじゃないと、まず販売店に受け入れてもらえないですね。最終消費者は基本的にひとつしか商品を購入しないので、ワンサイズしかないと言われれば受け入れてくれるかもしれないです。でもやはり販売してくださる方が売りやすいような手段を取っておかないといけないですね」

**「大川では  
うちの会社が一番!」**

では、さまざまなアイデアを持つ社長の夢はなんですか。夢はうちで働いてくれる社員が退職するときに、この会社で働いてよかったと思ってもらえること。それから社員の家族にも、その会社で働いてよかったねと思ってもらえたり、できたら社員の子供さんにも、その会社に入りたいと思ってもらえることですかね。売上ではなく、社員が自信満々に「大川ではうちの会社が一番だよ」と言ってもらえるようになっていきたいですね。それから完全な新規事業はずつとやりたいと考えています。よく三代目が会社を潰すといわれますけど、それを阻止するためにも。やはり日本の人口が減っていつまでか減っていくのはわかりきっていますから、家具以外の新規事業を考えていかなければいけないかなと」